

園名： 中央区立中央幼稚園 所在地：中央区湊1-4-1

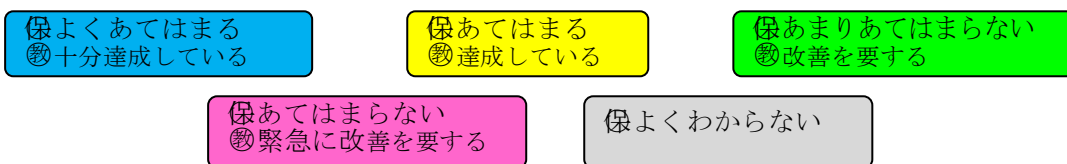
園長名： 野田 和敬

園児数： 72名 学級数：3学級 教員：5名（園長1名）

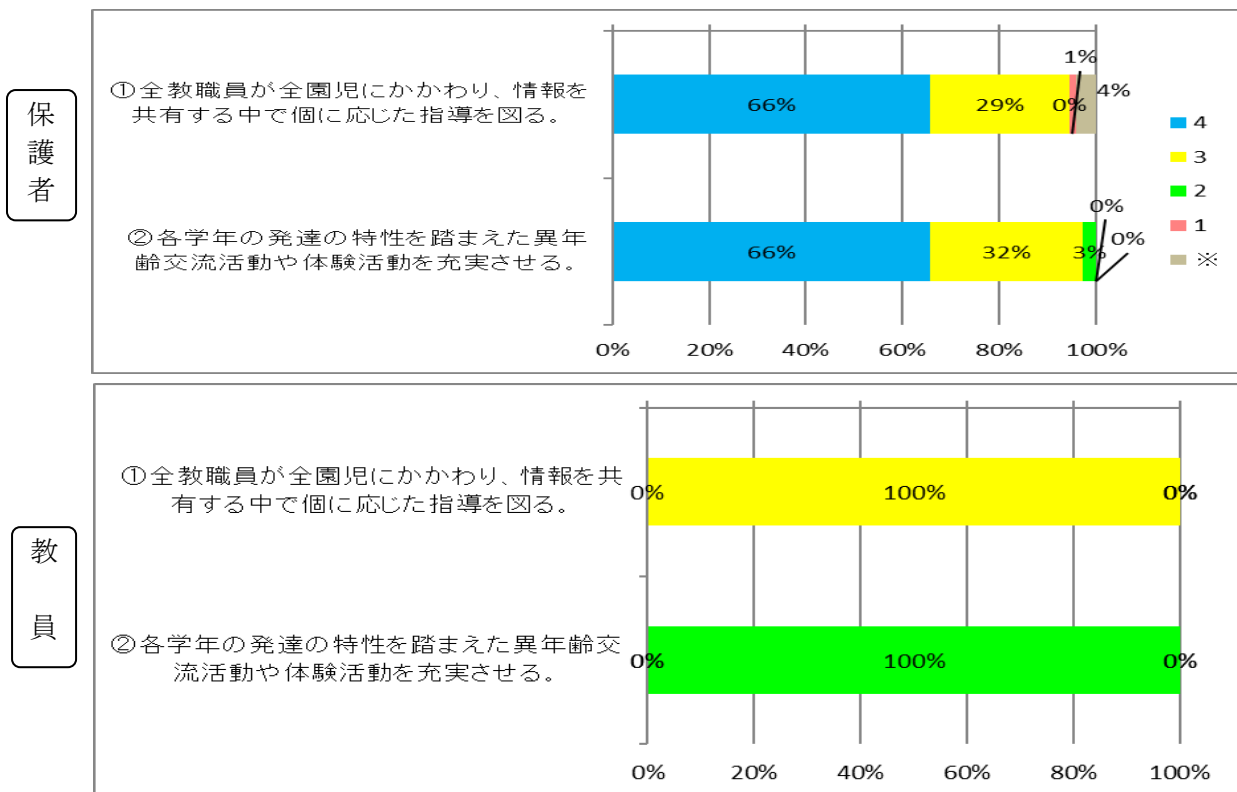
★本園では、Ⅰ主体的に学び行動する基礎の育成、Ⅱ豊かな人間性の基礎の育成、Ⅲ健康な体力・安全な生活の素地の育成の3点を重点目標に教育活動を行った。これについて、教員の自己評価アンケートを行うとともに、令和2年12月に保護者の皆様に園評価アンケートを実施した。回収率は100%である。

＜重点目標の達成状況及び取組状況＞

保護者の重点目標3項目の「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた平均は96.8%で、昨年度と同様に9割強という評価をいただいた。以下 重点目標ごとの結果である。



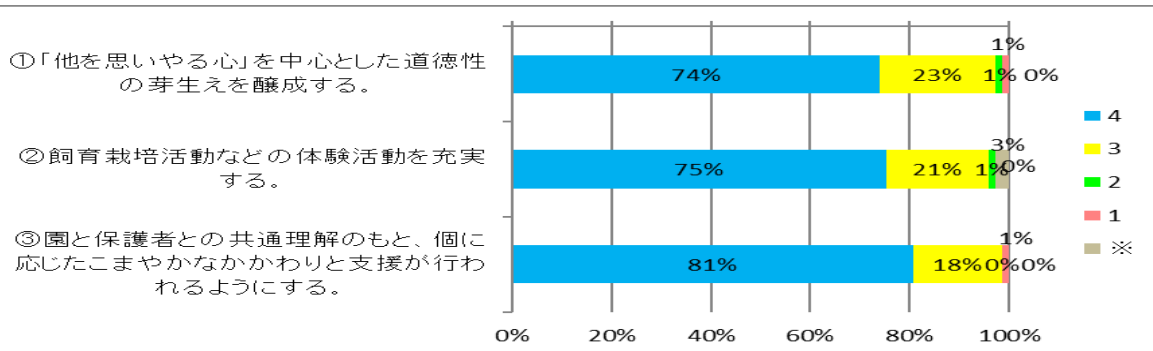
重点目標Ⅰ 主体的に学び行動する基礎の育成



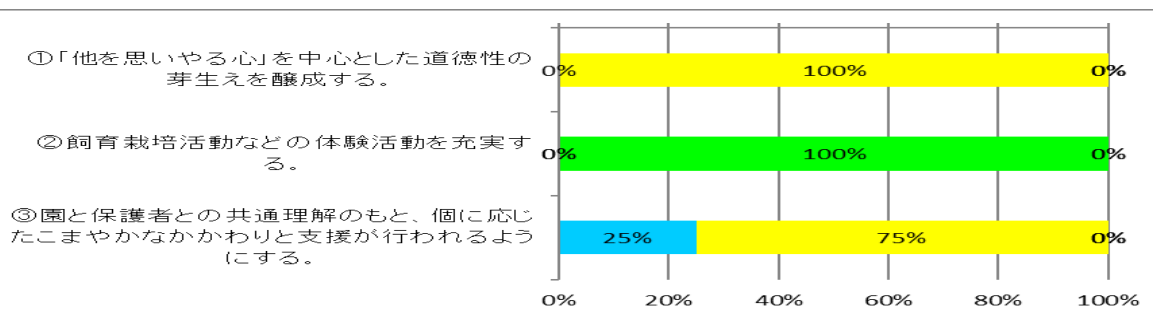
○重点目標Ⅰの保護者の「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は、96.5%とほぼ昨年度と同様の評価である。①の項目では今年度異動してきた職員が多い中だったが、丁寧に情報をやりとりしながら実践してきたことによる評価である。引き続き、全教員で幼児の実態や指導について情報を共有し、個に応じた指導に取り組んでいく。②の項では、保護者の回答が「あまりあてはまらない」が2件で、教員についても十分には実施できなかった評価である。感染症予防対応から、直接的な触れ合いを控えていたこともあるが、公開が少ない中、保護者の方には見えにくい面があった。互いの遊びや姿が刺激となり、憧れや親しみを感じていることや、子どもの育ちや保育の意図を保護者に分かりやすく伝えていく。

重点目標Ⅱ 豊かな人間性の基礎の育成

保護者



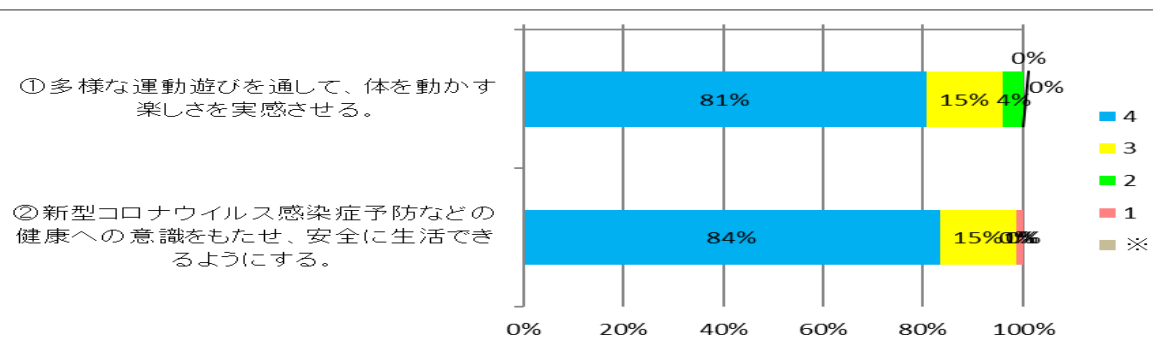
教員



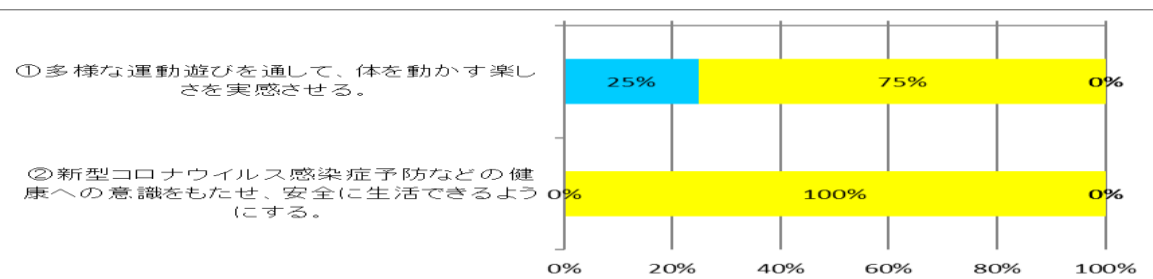
○重点目標Ⅱでは、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は96.6%と、昨年度と同様の評価である。しかし、①の『道徳性の芽生え』の項目に「あてはまらない」「あまりあてはまらない」という回答が2件あった。この項目については本園の教育目標「思いやりのある子」にもつながる大事な育てたい力である。人とのかわりを通して思いやりの気持ち、善悪の区別、場に応じた行動など身に付くよう、個に応じた具体的な指導を行っていく。②の『飼育栽培活動などの体験活動』では、「あまりあてはまらない」「よくわからない」が3件あった。教師も十分に環境構成できなかった課題がある。季節に応じた栽培物環境を整備するとともに、幼児の気づきや心の動く瞬間を捉えて、豊かな感性を育てていく。

重点目標Ⅲ 健康な体力・安全な生活の素地の育成

保護者

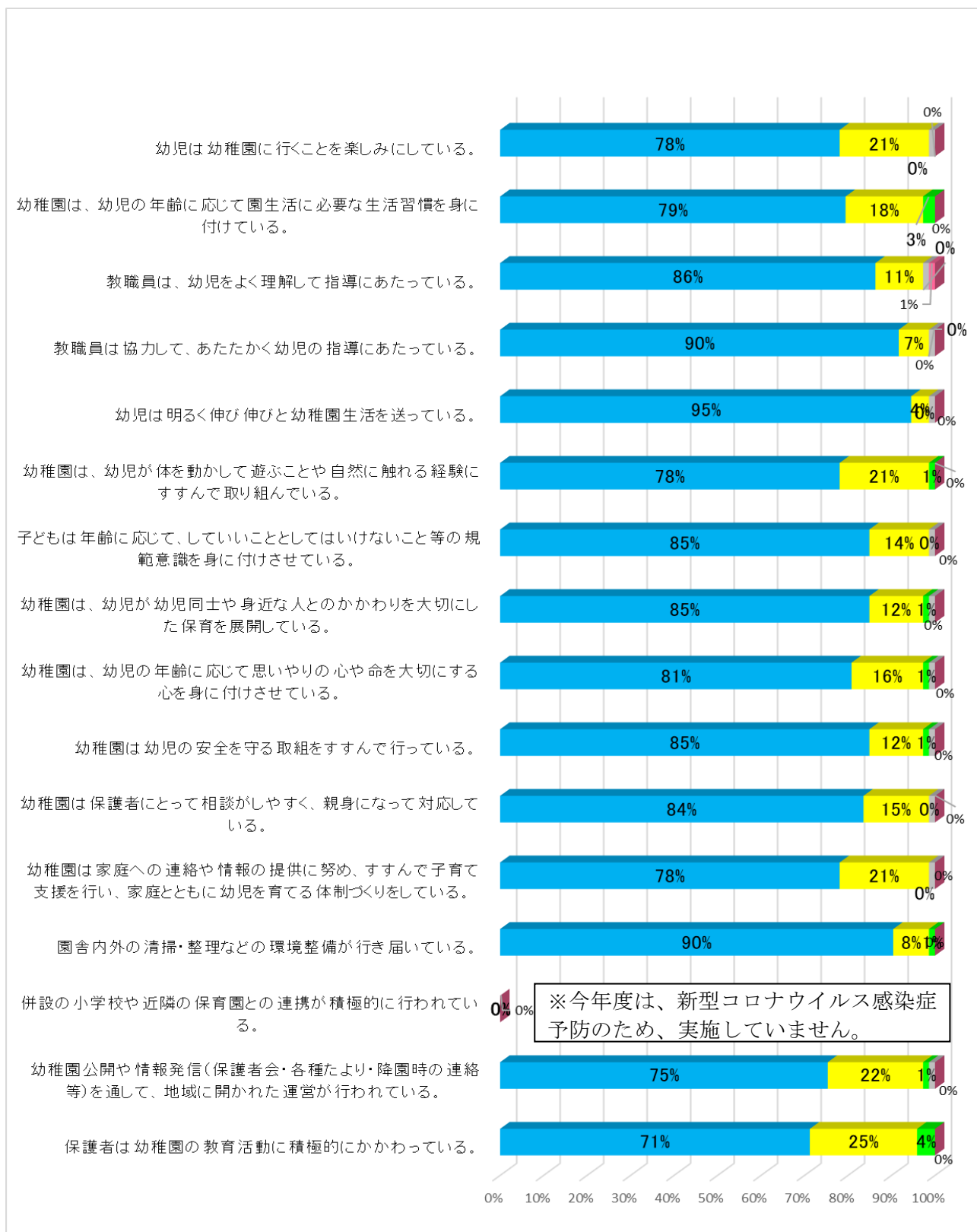


教員



○重点目標Ⅲの「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は97.5%と昨年度より1.5%低くなっている。①の項目では「あまりあてはまらない」の保護者の回答が3件あった。運動遊び推進園として、教員間で運動遊びの教材研究、研修を重ね、幼児が体を動かしたくなるような環境の工夫が必要である。また、保護者にも成果が伝わるような発信を積み重ねていく。

<重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況>



<重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況>

★全方位的な評価として、教員12項目、保護者15項目での評価を行った。

○教員による評価

「指導計画・内容」「外部との連携」の項目では、改善を要するという評価が多かった。

「指導計画・内容」については、互いの学年の保育のねらいを共有し、3年間の発達や成長の見通しをもった指導を重ねていく。「外部との連携」については、小学校との連携に課題をもつ教員が多かった。主な理由は今年度、新型コロナウイルス感染症予防の面から、子ども同士の積極的な交流を実施できなかったことにある。教員同士の交流を重ね関係を築いていくとともに、互いの教育活動のねらいを伝えあい、状況に応じて、できる方法を探っていく。

○保護者による評価

「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の平均は、昨年度と同様97.8%であった。しかし、少数数ではあるが、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」という回答もあった。その中でも、『園生活に必要な生活習慣』の項目では、「あまりあてはまらない」が3%（2件）あった。保護者と信頼関係を築きながら、幼児の成長や課題を共有し、園と家庭が一体となって、必要な生活習慣を身に付けられるようにしていきたい。

また『保護者は幼稚園の教育活動に積極的にかかわっている』の項目では、「あまりあてはまらない」が4%（3件）あった。これも新型コロナウイルス感染症予防の面から、保護者の保育参加、幼稚園公開などができなかった理由によるものかと考える。保護者にとって例年より幼児の姿、保育の内容が見えなかったと思う。しかし、自由記述欄や直接的にも「コロナ渦でも、幼児が楽しめるように工夫してくれている」「子どもは幼稚園に行くことを楽しみにしている」など感想が聞かれた。今後も、教育活動の情報発信に努め、家庭と幼稚園がつながっていることを実感していただけるよう努めていく。

<今後の改善方策>

○主体的に遊びや生活にかかわり自分の思いを表現しながら遊びを実現できるよう、一人一人に応じた指導の充実を図る。

○新しい生活様式を取り入れ、環境整備及び教育活動の精選、工夫を行い、保護者と連携しながら安全安心な幼稚園生活が送れるようにする。また、幼児へ自分の体に関心がもてるような指導を行い、具体的に保護者にも発信していく。

○運動遊び推進園として、多様な動きを引き出す遊びの工夫、園舎内外の場の活用を行っていく。また、コーディネーショントレーニングを活用するなど、教師自身も運動遊びで身に付けたい能力の把握、指導方法を学んでいく。

○併設小学校と連携する中で、教員同士が情報交換を密にし、互いの教育活動の理解を深め、互恵性のある交流を実施していく。合同に開催する展覧会や、授業・活動の見学、行事への参加などを通して、小学生の姿に刺激を受けたり、かかわったりする喜びを味わえるように計画していく。